

（対 3 参考人）

< 1. 給食格差、特に地域格差が大きい「中学校の完全給食実施率」について >

< 2. 食生活格差、特に給食がなくなる「学童保育の夏休み」・高校生、「朝の学校給食」について >

この調査会でも（2月7日「子どもをめぐる格差への取組」の回で）取り上げられたが、「子どもの貧困問題」において、現在、NPOによる「無料学習塾」や「子ども食堂」は全国的に増加。特に「子ども食堂」は、一種「ブーム的」になり認知度も高まっている。そして国や自治体も、この動きを後押しする施策に力をいれている。それ自体はよいのだが、忘れてはならない、国や自治体にしかできないこともあると考える。具体的に言えば「給食格差」の問題である。

例えば、中学校の給食には、以下の3パターンがある。

- (1)「完全給食」＝主食、おかず及びミルク、(2)「補食給食」＝おかず、ミルクのみ、(3)「ミルク給食」＝ミルクのみ（※あと、あえて言えば4パターン目に「給食なし」）。

_____ *** _____ *** _____ *** _____ *** _____ *** _____ ***

問 文部科学省が毎年行う「学校給食実施状況等調査」の最新版（H28年度調査）によると、都道府県別の「公立中学校における完全給食」実施率は、最高の100%（すべての中学校で実施）から、最低の27.3%までと、かなり大きな地域的偏りが存在している。（例えば、100%の千葉、99.5%の福島、埼玉、愛知県など。また、最低の27.3%は神奈川、次いで62.9%の兵庫、65.7%の滋賀県など）。一方、「公立小学校における完全給食」実施率はどの都道府県においてもほぼ100%。それを考えると、中学校における、このバラツキは改善されてしかるべきではないか。実際に、給食のない中学校では朝食を食べずに登校する生徒がいること、朝食を食べずに登校する生徒ほどお弁当を持参しないこと、その結果、十分な栄養を確保できない問題も深刻と聞かすが、『すべての子どもにしっかり食べさせたい』という観点から、どのように考えるか教えて欲しい。

_____ *** _____ *** _____ *** _____ *** _____ *** _____ ***

また、小学校では給食があったとしても、「学童保育」などでは夏休み中の食事をどうするか。そして小学校・中学校と給食があったとしても、高校生になればそれもなくなってしまいうわけで、この「食生活格差」を国レベル・自治体レベルでどうすべきと考えるか。さらには、朝食の提供＝「朝の学校給食」を行う実例も日本にあると聞かすが（また、米国では貧困の子どもに対する「学校朝食」が政府プログラムとして存在するとも聞かすが）、この辺りの今後の可能性について、どのようにお考えになるか伺いたい。

【いくつかの観点でお伺いしましたが、お考えのある部分だけのお答えでも構いません。】